

ACANTHUS NEWS



平成16年 **2004.6**
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第91号

TOP NEWS

9名の新名誉教授に称号記授与

5月31日、名誉教授称号記授与式が挙行され、本年度新たに名誉教授となった9名（当日出席者7名）に称号記が授与された。新名誉教授を含め、同日時点での本学名誉教授は242名となった。（関連記事3面）



林学長から称号記を授与される新名誉教授＝金沢市内のホテル

金子周一教授(医学系研究科)に 文部科学大臣賞(産学官連携功労者表彰)

文部科学省は5月28日、C型慢性肝炎のインターフェロンの効果を事前に予測するDNAチップ（インターフェロン反応チップ）を開発し世界で初めて日常診療への対応を可能にした医学系研究科の金子周一教授に、産学官連携功労者表彰（計13件）のうち文部科学大臣賞を授与することを決定した。表彰式は、国立京都国際会館を会場に開催される第3回産学官連携推進会議2日目の6月20日の予定。



金子教授

巻頭言

「個性輝く」金沢大学づくり



理事・副学長
中 村 信 一

本年4月1日を期して、本学は国立大学法人金沢大学として新たな一步を踏み出しました。国の行政組織の一部であった国立大学から法人格を有する組織へと生まれ変わり、大学自身の判断と責任とでマネジメントを行う体制がスタートしました。御承知のごとく、各大学の活動経費を全て国が賄うという従来の国立学校特別会計制度は廃止され、各国立大学法人は、学生納付金・病院収入等の自己収入と、運営費交付金・施設補助金等の国から補填される収入とを財源として独自の予算を構築し、その予算の使途と得られた成果について全責任を負わねばなりません。

法人化の最大の目的は、申すまでもなく、各大学が競争的環境の中で切磋琢磨することにより活性化し、能力や個性を最大限発揮できる環境を醸成することにあります。この改革を通じて「個性輝く大学」、「活力に富み国際競争力

のある大学」へと発展することが強く求められております。全教職員が一丸となって教育研究や運営の特色を積極的に打ち出していかなばなりません。このような難局を乗り切るには、トップダウンとボトムアップとを車の両輪とせねばならないと思います。

平成16年度の金沢大学予算は、「法人化へのソフトランディング」を最大限に考慮しています。「個性輝く」金沢大学づくりのために最も肝要なのは、独創性あふれる研究の発掘・育成であります。「輝く研究」を育てるため、今年度は「重点研究経費」を設けましたが、この経費は金沢大学のアイデンティティを確立する、21世紀COEへと発展させ得る「プロジェクト研究」に重点的に配分する予定です。「個性輝く」金沢大学づくりには、骨太の指針に沿って、失敗を恐れることなく挑戦し、今年度の経験を来年度に生かしていかなばなりません。

全国の高校生に「金沢大学で学んでみたい」と思わせしめ、全ての教職員が「生涯ここで仕事したい、して良かった」と自負し得る魅力あふれる環境を整えるため、努力していきたいと思います。併せて、教職員の一人ひとりが法人化をよりシリアスに受け止め、「個性輝く」金沢大学づくりのため何らかの貢献をされますよう切望致します。

目

次

9名の新名誉教授に称号記授与	1	学生・教職員と地域の交流推進	
金子周一教授（医学系研究科）に		「地域交流フォーラム」	8
文部科学大臣賞（産学官連携功労者表彰）	1	教育学部と附属学校園が共同研究会	9
巻頭言「個性輝く」金沢大学づくり	2	第27回石川テレビ賞	9
経済学部野村教授が講演－名誉教授懇談会－	3	日本ゴム協会第24回オーエンスレーガー賞	9
金沢で 日本学士院公開講演会	3	「健寿会」総会	9
工学部人間・機械工学科がJABEEから認定	4	本学へのお客さま	10
林学長ら、自然研の遠隔教育等設備を見学	4	東海・北陸・近畿地区学生指導研究会	10
山中温泉医療センターと本学との間で		ミニ講演 消化器がんの研究と治療の最前線	
遠隔病理検査を開始	5	－これまでの進歩と今後の展望－	11
附属病院講演会「配布型カルテ開示の経験」	5	公開講座	11
第4回北陸地域アイソトープ研究フォーラム	5	「くすりと健康ブラザ」第2回セミナー	11
「中期目標・計画」決まる		大学間交流会がスタート！－角間の里山自然学校－	12
（平成16年度から21年度までの6年間）	6	柳に咲いたバラ	12
金沢大学東京事務所KU@T活動開始	7	発行	12
角間ランチョンセミナー 国際交流月間		編集後記	12
－国際交流への関心高まる－	8		

トピックス

経済学部野村教授が講演
— 名誉教授懇談会 —

名誉教授称号記授与式に続く懇談会では、昨年度、日本学士院賞を受賞した経済学部野村真理教授が、「社会思想史のポジション」と題して講演した。野村教授は、自身の研究領域である社会思想史は、世間的有用性に直結するものではないが歴史への批判者としての役割を果たしており、またその研究が学問の自由が保障されている大学で進められた意義を強調した。講演の後、林勇二郎学長が、大学憲章の制定と3学域への再編・統合構想などについて説明した。



講演する野村教授

3学域再編・統合などについて説明する林学長
=5月31日

名誉教授を代表してあいさつする関雅美教授



式典に欠席の新名誉教授は、松野みどり（法学部）、川村満紀（工学部）の2氏

金沢で 日本学士院公開講演会

本学は日本学士院と共催して5月29日、金沢大学サテライト・プラザを会場に日本学士院第40回公開講演会を開催し、160名を超える市民が参加した。

森 亘公開講演会委員長に続いて主催者を代表してあいさつした林学長は、加賀藩時代に“天下の書府”と称された金沢市に脈脈と流れる学問の歴史と伝統に触れ、学術研究の更なる進展に期待を表明した。

講演会では“学問のみなもと”を共通テーマに、東大名誉教授の築島裕氏と京大名誉教授の広中平祐氏がそれぞれ、「国語の歴史の流れ—現代語の祖先・平安時代のことば—」、「なぜ数学するの?」と題して講演し、市民からの質問にも分かりやすく答えていた。



あいさつする林学長

5月のニュース

工学部人間・機械工学科が JABEEから認定

このほど、工学部人間・機械工学科は、2002年度の土木建設工学科、機能機械工学科に次いで、日本技術者教育認定機構(JABEE)から、社会の要求水準を満たし国際水準の技術者教育をしているとして2003年度JABEE認定を受けた。

工学部としては、3学科目であり、中期目標・中期計画期間中(～平成21年度)に他の学科も順次、教育プログラムの審査を受ける予定である。



JABEEから届いた認定証を手にする岡島厚工学部長(左)と佐藤秀紀学科長(右)
＝6月7日、工学部長室

林学長ら、自然研の遠隔教育等設備を見学

5月19日、自然科学研究科講義棟(自然科学本館)に導入された総合メディア設備を、林学長、朝倉信裕・大村明雄・鹿野勝彦理事らが見学した。この設備は「いつでもどこでも(ユビキタス)教育・学習・研究活動」を目指して整備されたもので、遠隔講義、e-Learning、グループ研究、遠隔会議など、様々な場面で利用が考えられるという。林学長らは、同研究科岩原正吉教授からシステム概要の説明を受けた後、e-Learningシステム、教材作成、遠隔講義システムなどの実演デモを見学した。

同研究科博士前期課程の医療薬学専攻では、このシステムを利用し、社会人大学院生を対象とするインターネット番組による授業が開始されている。これらの設備が活用されることにより、多様なニーズに応じた教育の機会提供が広がることが期待される。



自然科学研究科清水 栄助教授によるe-Learningシステムの実演を見学する林学長ら
＝自然科学本館遠隔ゼミナール室



東京と金沢との間で、遠隔講義システムを実演＝同遠隔講義室

山中温泉医療センターと本学との間で 遠隔病理検査を開始

山中温泉医療センターと医学系研究科形態機能病理学研究室は、5月1日から、高速通信回線を利用した遠隔病理検査を開始した。

センターで採取した標本を同センターに設置した顕微鏡セットに置き、そのデータを本学に送信して専門の病理医が診断するもので、大学病院等から病理医の派遣日に合わせて手術を行っていた病理医のいない中小の病院では、このシステムの利用により、適切な時期に手術を実施できるようになった。また手術中に、病片の良悪性の判断や転移の確認などを判断し処理する術中迅速診断も可能となった。

この事例は6月11日に開かれたシンポジウム「ブロードバンド時代の医療情報化－電子カルテの時代到来」で発表された。



病理標本を本学へ送信するセンター職員＝山中温泉医療センター

附属病院講演会 「配布型カルテ開示の経験」

医学部附属病院は5月14日、医療事故防止に関する研修会の一環として講演会を開催した。みなと医療生活共同組合 協立総合病院副院長の原 春久氏が、「配布型カルテ開示の経験」と題して講演した。



参加者

講演する原氏＝医学部臨床第一講義室

第4回北陸地域 アイソトープ研究フォーラム

5月11日に開催された「第4回北陸地域アイソトープ研究フォーラム」で、高輝度光科学研究センター特別研究員の植木龍夫氏が「放射光利用研究の最前線－SPring-8での生命科学を中心－」と題して講演した。このフォーラムは、世界最高性能の大型放射光施設であるSPring-8を利用した、最先端の研究について研究者・学生の理解を助けるために計画されたもので、本学を始めとして北陸三県の大学の教職員・学生、石川県関係者ら300名余りが参加した。



講演する植木氏＝医学部十全講堂

特集

「中期目標・計画」決まる（平成16年度から21年度までの6年間）

文部科学省からの中期目標の提示（5月26日付け）を受け、本学が認可申請していた中期計画は6月3日付けで認可された。6年間の基本的な目標及び計画のうち、学部・学科等の再編・統合等の計画について紹介する。

（全文はホームページを参照 <http://www.kanazawa-u.ac.jp/j/taisho/sta.html>）

基本的な目標

金沢大学憲章に掲げる理念・目標を基に、次のとおり中期の基本的な目標を定めた。

「人類の知的遺産を継承・革新し、地域と世界に開かれた大学」を基本理念とした「教育重視の研究大学」の実現

・「学問の自由」を尊重し、自主・自律的に教育、研究、社会貢献事業を推進

① 多様な学生の受入れと優れた人材の育成

② 基礎から実践に至る幅広い知の創造

③ 新しい学問の開拓と産業の創出

④ 地域と国際社会への貢献

⑤ 知の拠点としての情報発信

・環日本海域を中心とする東アジアの拠点として全世界に情報発信

・組織、制度、運営を不断に見直し、改革を持続的に推進



学部・学科等の再編・統合、大学院改組等の計画の概要

多様な学生の受入れと社会の要請に対応できる優れた人材を育成し、既成の学問領域の深化・拡大と新領域を開拓する学術研究、基礎から応用・実践にいたる研究による幅広い知の創成を図るため、次のとおり学部・学科等の再編・統合の改革を進めることとしている。

学部は、現行の大学院博士課程の研究科と対応させることを基本とし、文系、自然系及び医系の3学部（学域）に再編・統合する。教育学部については、3学部（学域）への再編・統合を視野に入れ、教員養成担当大学としての役割を堅持する。大学院は、既存の専攻を見直し、部局化及びその前提となる区分制博士課程への改組を図る。社会環境科学研究科は、区分制博士課程への改組及び部局化を早期に実現する。薬学部の6年制移行に伴う自然科学研究科及び医学系研究科の改組、医学系基礎研究者養成のための医学系研究科修士課程の設置及び医学系研究科保健学専攻の部局化を進める。また、関連の専門を集中特化したフロンティア科学研究機構を設置する。

さらに、専門職大学院として、法科大学院（法務研究科）の設置に続き、技術経営（MOT）コース、ビジネススクール（MBA）等の設置を検討する。

研究（教員）組織は、教育（学生）組織から分離する。



地域経済塾

再編・統合後の新組織の骨格及び名称（仮称＝学内措置）等については、次のとおりとする。

①従来の学部を束ねた新教育組織として「学域」を置き、「人間社会科学域」、「自然科学域」及び「医薬科学域」をもって構成する。

「学域」に、学科又は課程を置く。

②研究（教員）組織として「研究域」を置き、「人間社会科学研究域」、「自然科学研究域」及び「医薬科学研究域」をもって構成する。

「研究域」に「系」を置き、管理運営の実質的母体とする。

以上の学部・学科等の再編・統合の時期は、平成20年度とする。

金沢大学東京事務所 KU@T 活動開始

東京港区キャンパス・イノベーションセンター内に、この4月から開設された金沢大学東京事務所KU@T（キュアット）が活動を始めている。ここは本学の東京事務所として、また、(有)金沢大学ティ・エル・オー（KUTLO）の東京事務所としての2つの機能を併せ持ち、産学官の連携強化、情報収集、大学の知的財産の技術移転などの活動とともに、本学教職員の出張時の打合せ等の場所としての利用も可能となっている。

同センター内には、本学の他14大学がリエゾン室を、北陸先端大など5大学がサテライト講義室を構え、各大学の施設の他、100人収容のホール、会議室、情報発信コーナー、自由に使用できるリエゾンコーナーやラウンジなど充実した施設を備えている。



キャンパス・イノベーションセンター外観

キャンパス・イノベーションセンターの概要

- 1～2階 受付、ホール（100人収容）
多目的室（有料貸出し会議室等）、
情報発信コーナー、SE室
- 3～4階 大学サテライト講義室
北陸先端大、横浜国立大、桜美林大、
芝浦工大、立教大
- 5～6階 大学リエゾン室群 15大学
5階：金沢大、広島大、静岡大、九州工大、
山形大、愛媛大、リエゾンコーナー
6階：熊本大、千葉大、奈良先端大、大阪大、山口大、
新潟大、山梨大、東京農工大、同志社大
- 7～9階 東京工業大

東京事務所開設にあたり

知的財産本部長

吉國 信雄

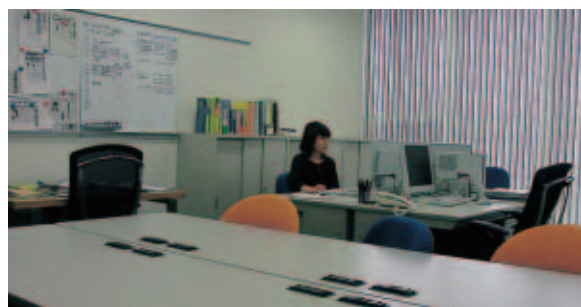


このたび、金沢大学東京事務所を開設することとなりました。

当事務所は本学の東京事務所であると同時に、金沢大学TLO（KUTLO）の東京事務所としての機能を併せ持ち、大学とKUTLOが協力して金沢大学の研究成果を積極的に社会に還元していくための発信基地です。産学官連携の東京における窓口としての活動が期待されています。

また、東京における本学の活動の橋頭堡として、また、東京在住の本学関係者の活動拠点として、その役割を最大限に発揮できるようがんばる所存でおります。

皆様のご理解とご支援、よろしくお願い申し上げます。

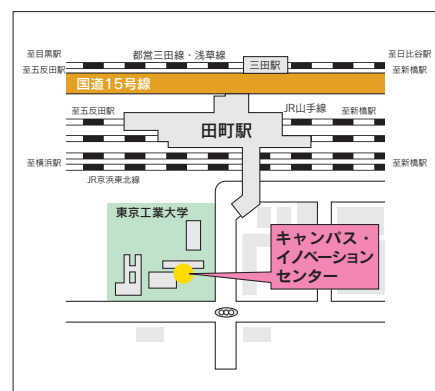


東京事務所内部



各大学共用の
リエゾンコーナー

連絡先 〒108-0023東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター 505号室
最寄り駅 JR田町駅 芝浦口（東口）徒歩1分
地下鉄 都営浅草線・三田線 三田駅 徒歩4分
（羽田空港より京浜急行にて乗り換えなし直通、約25分）
金沢大学職員 土橋 直美
KUTLO 東京事務所長 濱中 隆夫
電話・FAX 03-5440-9069
メール dobashi@ad.kanazawa-u.ac.jp
hamanaka@kutlo.incu.kanazawa-u.ac.jp



5月のニュース

角間ランチョンセミナー 国際交流月間 —国際交流への関心高まる—

5月のランチョンセミナーは、大学教育開発・支援センター、留学生センター、外国語教育研究センターの3センターが連携して「国際交流月間」として開催された。

月間中のランチョンセミナーでは、留学生をはじめとして企業や国際機関で働く人など多様な人たちが講師を務め、大学の中の身近な国際社会、派遣留学体験談、UNESCOやJICA等の国際機関の活動などが毎日日替わりで紹介され、回を重ねるごとに参加者が増えて小さな国際交流熱が沸き起こっていた。

3センターでは、留学生と日本人学生が刺激し合いながら共に学ぶ環境の整備、派遣留学生の増加などを目指して、今後も様々な共同企画を実施する予定である。



5月6日、留学生による発表「ヨーロッパの鼓動：チェコ」
＝総合教育棟A1講義室

タフツ大学夏期英語研修プログラムへ学生派遣



タフツ大学本部棟

本学では、この夏に大学間交流協定締結校である米国タフツ大学が実施する夏期英語研修プログラムへの参加希望者を募ったところ、5月21日までに5名から申し出があった。協定校が開催する同種のプログラムに本学として学生を派遣することは初めての試みである。本学では、留学生受入れに比して、日本人学生の留学が少ないことが指摘されてきたが、この夏期研修が、学生の国際性の涵養^{かん}や長期留学への契機となること、また、協定校との交流が促進されることが期待される。

学生・教職員と地域の交流推進「地域交流フォーラム」



熱心にメモをとる学生ら＝総合教育棟C5講義室

社会貢献室では、学生や教職員にこれまで取り組んできた地域貢献事業の趣旨を理解してもらい、より多くの参加を呼びかけようと、「地域交流フォーラム」を始めた。このフォーラムでは、事業の担当教員と事業に係わる地域の方を提言者として、地域との連携などについて意見交換する。

5月13日は「身近な自然と自然学校」をテーマに、第1回目となる地域交流フォーラムを開き、「いしかわ自然学校」の越石あき子氏、「いしかわ野外教育研究会」の成田裕氏、「角間の里山自然学校」活動を率いる佐川哲也助教授が、それぞれの活動の内容やそこから得た貴重な体験を紹介した。フォーラム終了後には、学生が活動への参加方法などを熱心に尋ねていた。

教育学部と附属学校園が 共同研究会

5月6日、教育学部と附属学校は、両者の連携強化を目指した初の共同研究会を開催した。この研究会は、国立の総合大学として唯一、幼稚園、小、中、高、養護学校のすべての校種を設置しているという特色を生かし、学部と各附属の校種の枠を超えた組織的な研究開発に取り組む「合同実践研究プロジェクト」の推進や連携カリキュラム開発をめざして企画されたもので、富山大学附属小と金沢市教委の代表者も出席した。



「学部と附属学校園の連携に期待されること」
をテーマに開かれた全体会＝教育学部附属中学校

第27回石川テレビ賞



山本教授

医学系研究科山本悦秀教授は5月28日、第27回石川テレビ賞を受賞した。口腔がんの治療成績を世界一の水準に押し上げた実績が評価されたもの。

日本ゴム協会 第24回オーエンスレーガー賞



表彰状と盾を手にする内山教授

自然科学研究科の内山吉隆教授は5月20日、日本ゴム協会から第24回オーエンスレーガー賞を受賞した。ゴムの摩擦・磨耗に関する基礎的研究が高く評価されたもの。

「健寿会」総会



総会に出席の会員と現職員＝金沢市内のホテル

5月22日、教員を除く金沢大学の退職者で組織されている「健寿会」（会長：林学長、会員407名）の平成16年度総会と懇親会が開かれ、89名の会員が旧交を温めた。

総会では、林学長が、大学憲章の制定と法人化後の運営組織について説明し、本学への一層の理解と支援を要請した。また、喜寿・古希の寿杯が15名に贈られた。

本学へのお客さま



5月19日、工学部と経済学部^{かん いくぶ}の部局間交流協定校である韓国湖西大学校^{かな い のふし} 姜 一求^{かん いく}総長（左から5人目）、金居修省専任講師（同6人目）が、林学長、大村副学長らを訪問し、両大学の交流促進を協議した。また、同大学校からの留学生と懇談した。＝学長室

5月28日、大学間交流協定校であるオーストラリアのグリフィス大学から、応用言語学・語学センターのマーガレット・キャシー ディレクター代行（右端）とピーター・カーター プログラムマネージャー（右から2人目）が来学し、大村副学長らと両大学間での学生の交換等に関する意見交換を行った。＝大村副学長室



6月1日、UMAP（アジア太平洋大学交流機構）のジェーン・スパルディング米国事務局長（左端）が来学し、本学「海外留学フェア2004」オープニングセレモニーであいさつの後、留学生センター教員と意見交換を行った。また、海外留学フェア会場などで、交換留学生と懇談した。＝大学会館大集会室

東海・北陸・近畿地区学生指導研究会

東海・北陸・近畿地区学生指導研究会第48回総会が、本学を当番校として5月13日、石川厚生年金会館において開催された。

研究会には、東海・北陸・近畿地区所在の国公立の大学・短大・高等専門学校のうち253機関が加盟しており、当日は幹事会・総会に続き、本学大学教育開発・支援センター長の青野 透教授が「学生支援から始まる教育改革」と題して講演した。



総会で開会のあいさつを述べる鹿野副学長

社会貢献

ミニ講演 消化器がんの研究と治療の最前線 －これまでの進歩と今後の展望－

○月 日：5月8日
○講 師：大村 健二 医学部附属病院講師
○場 所：金沢大学サテライト・プラザ講義室
○来場者：33名



公開講座



＝5月8日，教育学部芸術棟音楽ホール



＝5月15日，金沢大学サテライト・プラザ講義室



＝6月5日，金沢大学サテライト・プラザ講義室

○音楽の楽しみ方いろいろ（Ⅳ）
－いろいろな楽器を楽しんでみよう－
主任講師：篠原秀夫教育学部教授

○美術へのいざないⅧ 大人の造形遊び
－デジタルカメラを使ったイメージビデオ制作－
主任講師：鷲山 靖教育学部助教授

○大きな宇宙と小さな素粒子
主任講師：村上敏夫自然科学研究科教授

「くすりと健康プラザ」第2回セミナー

5月15日、「泌尿器疾患治療薬（尿もれ，頻尿）の正しい使い方」をテーマに「くすりと健康プラザ」第2回セミナーが開かれ，大鵬薬品工業株式会社ヘルスケア営業企画課の梶谷亮氏が，市民らに泌尿器疾患の病因・病理とそれに対処するくすりの作用機序について分かりやすく解説した。このセミナーは本学の社会貢献事業の1つとして，正しい医薬品の使い方ネットワークの構築を目指して開かれている。セミナーでは，実際に尿疾患で治療中の参加者から，2剤の同時服用に関する疑問や，薬剤師からは市販薬の2剤の同時服用の危険性について指摘などが出され，参加した市民らはくすりの正しい使い方について理解を深めた。



セミナー参加の市民ら
＝くすりと健康プラザ（金沢市石引，アカンサス薬局2階）

大学間交流会がスタート！

－角間の里山自然学校－

里山をフィールドとして教育・研究活動に取り組む4つの大学（金沢大学、京都女子大学、龍谷大学、九州大学）の間で交流が始まった。交流会の第1弾企画は、本学角間の里山ゾーン内の北谷^{きただん}での田植えだった。5月22日、京都女子大学と龍谷大学の学生と教員18名が角間を訪れ、苗とりと田植えに汗を流した。

交流会では、定期的にお互いの里山を訪問する。次回は、京都女子大学の里山（通称「京女の森」）で秋にお月見の会を行う予定である。



稲の苗とりと汗を流す学生ら

柳に咲いたバラ

教育学部附属高等学校の柳の木（樹齢60年以上）に、バラの花が咲いた。鳥や昆虫が種を運んだのか、柳の中程（4m）にバラが寄生したものである。毎年5月中旬頃から咲き始め、下旬には満開となる。校庭にほのかな香りが漂い、生徒や付近の住民を楽しませた。この珍しい宿木を、一度御覧になってはいかがでしょうか。



柳の木にからまって満開に咲きほこったバラ

発 行



○金沢大学地域貢献情報誌

「地域とともに」

本学の地域貢献の取り組みをまとめた広報誌

全教職員に配布し、広報キャンペーンを行っています。

お問合せ：社会貢献室

（TEL：076-264-5905）

記事訂正

平成16年5月21日発行の月刊アカンサスニュース第90号8頁の日本機械学会賞（論文）記事の写真説明文を「酒井助手」と記載しましたが、「坂本助教授」の誤りでした。お詫びして訂正します。

編 集 後 記

本学の中期目標・中期計画は、国立大学評価委員会の審査と財務省協議を経て、このほど提示・認可されました。大学院研究科の博士課程に合せて、学校教育法第53条ただし書きに規定する「学部以外の教育研究上の基本となる組織」として「学域」を置き、従来の8学部を束ねて3学域に再編・統合するという、壮大な計画が待ち受けております。

折しも、本学の先生が「産学官連携功労者」として文部科学大臣賞を受賞するとの報が飛び込んできました。久々に胸が躍りました。次に続くビッグニュースの予兆かも知れません。（K. N）

平成16年 6月18日発行
（原則として毎月1回第3週に発行）

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」〈愛称“KUPIS”（キューピーズ）〉

（アドレス＝<http://www.kanazawa-u.ac.jp>）でもご覧いただけます。

◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール（E-mail）＝general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。